



教会の青年たち

ブラジリアの風



「百万人の福音」の連載記事

新型コロナウイルスの脅威の中でも

「神はそのただ中におられ、その都は揺るがない」
詩篇46:5

3月に入ってから、ブラジルも新型コロナウイルスの感染者が徐々に増え、様々な情報が飛び交うなかで不安と緊張の日々が続いています。3月11日にWHO（世界保健機関）がパンデミック宣言をした直後、ブラジリア連邦区のイバネイス知事も学校の休校措置を決定し、3月18日には教会も含めたあらゆる集会、商業活動の中止・閉鎖が通達されました。食料品を扱うスーパーやパン屋、薬局などは営業していますが、その他の店は4月5日まで閉鎖となります。

私たちの教会も、全ての集会を中止する決断をしましたが、礼拝だけはインターネットを介したオンラインで継続する予定です。物理的には一つ所に集まれません、時代のテクノロジーを駆使して教会が一つとなって主を礼拝することができることは、大きな恵みです。

時の偶然か、9年前の東日本大震災と今回のパンデミック宣言が「3.11」で重なりましたが、あの時、日本の教会はどうしていただろうかと改めて当時の記憶を呼び起こしています。津波や原発事故で建物を失った教会もありましたが、それらの教会も含めて日本の教会は主を礼拝し続けていました。そして世界の教会も日本のために祈っていました。当時、詩篇46篇を度々開き、「神はわれらの避け所、また力」なんだということを心に刻んでいました。不動の山々が揺れ動くように、今世界中が動揺し、私たちの生活も心も大きな揺れに直面しています。しかし「神はそのただ中におられ、その都は揺るがない」との約束があります。恐れや不安にさいなまれることがあっても、そのただ中に主がおられ、主権と恵みをもって助けてくださることを確信して歩めるようにと祈られています。

今回、パンデミック宣言が出される前週の3月7日、ヴァルゼンボニータ町の日本人会館で初めて「書道教室」を開き、14名もの人が集まってくれました。この日は「天」の一文字を書きましたが、聖書のメッセージを大胆に喜んで語ることができました。天地を造られた神が私たちを愛し、「天のふるさと」を目指して歩むことを願っておられるとお伝えしました。



ヴァルゼンボニータでの初の書道教室

あるご婦人は、涙を流してお礼を言われ帰っていかれました。天から下られた「救い主」を愛と祈りをもって語り続けることができますように。この地にクリスチャンが生まれ、教会が誕生することを切に祈っています。主ご自身の御心とご計画が実現していくように是非お祈りください！

感謝の報告と祈りのお願い

・1月末の妻陽子の手術は無事守られました。お祈りをありがとうございました。

・新型コロナウイルスの感染が収束し、通常の生活に戻れるように。閉鎖を余儀なくされている教会が一致し前進できるように。通常礼拝が再開できるように。

・ヴァルゼンボニータで始まった書道教室、また4月から月一回で予定している夕方の日曜礼拝が祝福されるように。

・2020年の宣教師指定献金が満たされるように。

皆さまのお働きとご家庭、教会の祝福を心よりお祈り申し上げます。

2020.3.21

浜田献、陽子

「浜田宣教師指定」
献金者一覧(2020年1-2月)

松戸福音教会、原町キリスト福音教会、新船橋キリスト教会、くずは聖書教会、鞭木由行、播磨キリスト教会、蛸池聖書教会、麻布霞町教会、波崎キリスト教会、安城中央キリスト教会、石神井福音教会、総和キリスト教会、町田南キリスト教会、光の森聖書教会(敬称略)

(1-2月合計) 159,420 円
【2020年目標額:160万円】

*1,2月の尊いご献金をありがとうございます。2020年の必要が満たされ、宣教に邁進できるようにお祈りください。